

会報誌 「ドローン Magazine」 活動記録イグルーを作ろう！

ドローンキャンプサイト上富良野でのイグルー制作とその記録です。作成とお泊りされた方の作成後記もご覧ください。

日時：2023年2月11日（土）12時—12日（日）12時

場所：北海道空知郡上富良野町1420-50

※選定条件：①緊急時の避難場所、②水が使える、③雪の量、④安全な場所

天候：11日最高気温-2°、最低気温-16°、風速1m以下、曇り時々晴れ、

積雪深約60Cm、日出06:35 日没16:54、

参加者：会員3名（イグルー作成は2名／1基）

工具等：スコップ（アルミ・角・プラ）、手鋸、ポリタンク、如雨露、買物籠

活動概要 10日1名12時現地入りし下見と準備

- ・確認事項：作成場所、雪質、雪量、避難場所、トイレ等

- ・懸案事項：ログハウスの水道が凍結、雪がパウダー状で踏み固めが出来ない

11日10時1名合流、13時1名合流

- ・対策：水は近隣のオーナー牧場からポリタンク運搬（ポリタンク約10個）

- ※水は必要量が不明で18Lポリタンク、買物籠の準備

- ・ブロック試作：買物籠での雪ブロック試作

11日13時30分制作開始

- ・2名での奮闘、水量20Lタンク×10相当（ペットボトル活用含）

17時30分—18時休憩（焚火と軽食）

11日19時30分完成 延べ5時間30分×2名 11時間人



札幌市西区西野4条10丁目12番12号

北海道ドローン研究会事務局 ドローン Magazine 編集部 高橋

JR8YQH 事務局 (JA5KTF/8)

Clubhouse CLUB:「北海道ドローン研究会」

com@forest.ocn.ne.jp

<http://www.hds.comdrone.net/>

キャンプ部 杵淵 信(きねふちまこと)

2023年2月11日(土)に会長高橋さんとキャンプ部西本さんと同杵淵でイグルー作りに挑戦してきました。以下報告です。 参考にしてください。(一部高橋会長からの写真と説明文を使わせていただきました)

1.イグルー制作編



時期:2023年2月11日(土)ー12日(日)
 目的地:DCS 上富良野(北海道空知郡上富良野町1420-50)
 イグルーの作り方

①大きさ,場所 ・内径が1.5m~2m,高さ1m以内サイズはなるべく小さいほうが,中に熱がこもるため暖かく,作るのも楽です。
 ・多少の傾斜又は平地 ・形示 ②ブロック切り出し:・30cm×40cm厚さ20cm± ③ブロック積み上げ・1段目:内径に沿って円積(入口部位は1個分) 上面を45°程度内側に切る ・2段目以降:徐々に内円傾斜と厚みを薄くする 重さと積み易さ高さは円の半分程度,隙間はあまり気にせずに,屋根を完成させる・薄くて大きいブロックで屋根を塞ぐ ④入り口:雪面を掘ってトンネル入り口 ⑤壁の補正・内側の凹凸を,のこぎりやスコップで滑らかなドーム状に整える ・床面を平らにする,必要により床面を掘り下げ居住空間を広くする ・外壁の出っ張った部分をのこぎりでカットし成形し隙間を埋める ※時間がたつと雪同士を馴染ませる。 道具:角スコップ, 水(100リッター程),じょうろ, 鋸, 手袋, バケツ, 紐等

目的地 北海道空知郡上富良野町1420-50

イグルーの作り方



時期:2023年2月11日(土)ー12日(日)
 目的地:DCS 上富良野(北海道空知郡上富良野町1420-50) 中央の大きな家が敷地内のログハウス 周囲に管理人小屋とか倉庫やらがある。



敷地内にあるログハウス 以前は人が住んでいたらしいが,今は問い合わせれば自由に使えるとの事。中はストーブガンガンで快適でしたが,何故か私は勢いでイグルーに泊まるハメになった。



まずは,天候を見てまず場所を決める。内径が1.5m~2m 高さ1m 以内, 多少の傾斜又は平地(当日の天候は曇り,気温-4°程度以下) 丸く踏み固める。



道具を用意する。フワフワ雪の場合は,型枠(買い物かご), 水(20リッターポリタンク5個), じょうろ, 角スコップ, 鋸, 手袋, 紐等 締まった雪があって,切り出せるなら角スコップ, 鋸, が必要だ。



ブロック切り出す。30cm×40cm 厚さ20cm±が理想らしい。この日はフワフワ雪なので、買い物かごに10cm程度雪を入れて、じょうろで水をかけこれを3回繰り返す、最後にひっくり返して1ブロックとした。(水が雪の接着剤の役割をするので作業は氷点下-4°くらいで行う)このブロック作りは結構たいへんだ。



ブロック積み上げ1段目:内径に沿って円積する。上面を45°程度内側に傾斜つけて削っておく。1段目で買い物かごの大きさのブロックを12個使った。・2段目以降:徐々に内円傾斜と厚みを薄くする。2段目の1周で買い物かごのブロックを11個程度使った。



高さは円の半分程度、隙間はあまり気にせず、3・4・5段をつくる(最終的には6段でした)。5段目くらいのブロックは、4段目の上に積むというより、水をかけて4段目のブロックの側面に貼り付けるイメージになる。ブロックのつなぎ目に水をかけて接着剤のように作用させる。このため、この作業は氷点下で行う必要がある。5段目のブロックの立場からすると、下への支えはほとんどなく、あくまで下のブロックの側面に水をかけて凍らせて着いている状態になる。ただ、5段目が全周にわたって配置されると、5段目同志の側面でも繋がっているの、時間がたつと丈夫になるはず。同様に6段目をつける。



6段目が終わると結局天井は直径50cm程度の穴になる。薄くて大きいブロック(直径80cm, 厚さ5cmくらいの雪板)を作り、この中央の天井穴にのせてつなぎ目に水をかけて屋根とする。

雪面を掘ってトンネル入り口をつくる。内側の凹凸を、のこぎりやスコップで滑らかなドーム状に整える。床面を平らにする、必要により床面を掘り下げ居住空間を広くする。外壁の出っ張った部分をのこぎりでカットし成形し隙間を埋める。

※時間がたつと雪同士を馴染ませる



余ったブロックで門柱をつくる。

完成後の記念写真

これらの作業は、会長と他のキャンプ部員の功劳なくしてはできなかった。特にブロックづくりや、用具と水の確保などの労力はたいへんなものがあった。ここに改めて感謝申し上げます。

制作場所の選定、地ならし時点からみると、直径2m程度のイグルーの作成は、買い物かごでブロックを作りながらの作業もあり、男3人で5時間くらいかかった。次に作る時はもっと早くできると思うけど、だれかやってみてください。でこれで終わりかと思ったら、だはまだ先があった…。次ページにつづく。

2 イグルー宿泊編



午後7時も過ぎて、辺りはすっかり暗くなる。「それじゃ私はこれでー」と皆さんお帰りになったり、管理小屋にお戻りになったりで、結局私一人になった。お世話になったのに、なにも貢献できないのは申し訳ない。そもそもキャンプ部なので、ここに泊まる準備を始めた。



まずは、晩御飯です。寒いので焼き肉用コンロで炭を焚いて暖をとるが氷点下5°くらいで結構寒い。スマホに保存の音楽を聞きながら、スーパーで買って来た味付焼き肉とかぼちののスライスを焼いてカンチューハイを飲むのだが寒さのせいでさっぱり酔わない。周囲は鹿やらキツネがウロウロして、食糧が危ない。でもソロキャンプって本来こんなものか。



炭火焚きは12時くらいまでやったが、結局飽きてきていよいよイグルーに入ってみる。とは言っても入口は直径50cmくらいの穴ですごく狭い。キツネの子どもはこんな狭い穴で暮らしているのか、と思いつつ前進で中に入ると、やっぱり狭い。とても足を伸ばして寝ることはできない。仕方がないので、頭を入口に出して寝ることにした。さらに床面は、適当にならしたがそれでも結構ごつごつで、やっぱりぬくぬくベッドがいいなあ。一応、この経験前の一週間ほどは、自宅の暖房の入っていない部屋で寝袋で寝て練習していたのでこの程度の寒さは耐えられそう。



あと、下着は上下は長そで、ズボン下をはいているし、シャツとフード付のジャージなので寝袋に入ればなんとかなると思う。内部は結構暖かく、プラス4°くらいになる。さんざん飲んだチューハイの呼気であたたまるらしい。天井から水がしたたり落ちるが、まあ、朝までのことだからよしとする。ただ湿度は95%もあって、これって快適かと言われると……。しかしこの日は富良野の冬の割には気温が高めで、昼でマイナス4°C夜でもマイナス8°Cだったので運がいいと思う



寝床は、一番下に荷物包装用の反射シート、次にキャンプ用のシートを敷いて、寝袋は3シーズン用のやつを2枚重ねてある。そのうち1枚はやはり反射シートが織り込んである。これだけ防寒していればたいていは大丈夫で、この中に入ればホカホカだった。ただ、写真にあるように、このくらいはみ出して頭が外に出る。当日は降雪もなかったのでジャージのフードをかぶって頭出して寝た。寝るとき星が見えたので、これってビバークって言うんだよなと思いつつそれでもよく寝た。朝起きたら、やはりそこは浮世(現世)だった。

このたびは、高橋会長をはじめ西本さんにもたいへんお世話になりました。改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。今回参加できなかった皆さんも、機会がありましたら、是非やってみてください。自信つきますよ。
